

shin koh

2023(令和5)年

# 合縁号 12月

# 心耕

2024(令和6)年

しん こ う

西光寺々報

十二月の行事

十二日(火)はじめの一步

午後一時 阿弥陀経を学ぶ

二十四日(日)日曜法座

午後一時 法話、住取担当

勉強会 壮年会 六日午後六時

婦人会 十二日午前十時

写経会 八日(金)

午後一時 ぬんわりと

寺カフェ 二十八日(木)

午前十時 もちつき、ピカ焼体験

ヨガ 五十九日(火)

午後一時 毎回千円 正座ができるように

一月の行事

一日(月)元旦会

午前十時 一年の始まりは仏様へのあいさつから

十六日(火)御正忌

午後一時 親鸞聖人の命日です

寺カフェ 十二日(土)

午前十時 二胡コンサート

ヨガ 九・三十日(火)

午後一時 毎回千円

お朝事

毎朝六時半 必<sup>1</sup>/<sub>2</sub>休み

ある日、お寺に遊びに来た

子ども達が、四つ葉のクローバー

を探していました。ある子が見

つからず、「つまんない」と言いました。

その様子を見て私は思いました。

「三つ葉じゃダメなのか」と、幸

せのクローバーが、四つ葉ではるく三

つ葉だったら、そちら中に幸せがあ

るじゃないですか。でもやっぱり、

四つ葉を見つけるとつれいひの

です。人間の性です。令和五年

お世に存じました。令和六年も、よろしく

お世に存じました。令和六年も、よろしく

# 法座案内

十二月十二日(火) 十三時

はじめの一步 第四回

阿弥陀経を学んでいます。いよいよ本文に。途中参加もどうぞ!

十二月二十四日(日) 十三時

日曜法座

「一人一人がお浄土を飾っていく  
一輪一輪の花になる」 住職担当

一月一日(月) 十時

元旦会

令和六年も新年会は行わず、勤行のみです。トホホ・・・

一月十六日(火) 十三時

御正忌

親鸞聖人のご命日の法要です。

# 各種ご案内

・お朝事 毎朝六時半〜七時

日々のお参り、命日などにお参り下さい。

\*一月二日

・写経会 八日(金) 十三時〜 一月休

いつでも誰でも始められます。

・壮年会・婦人会主催の勉強会

壮年会 六日 十八時〜 一月休

婦人会 十二日 十時〜 一月休

・Youtube 西光寺チャンネル更新

新作アニメを配信しています他にも説教や読経を上げています。是非登録を!



・寺カフェ予約制

大人五百円 子ども無料

昼食付 十時〜十二時半

二十八日(木) もちつき・ピザ焼き体験

一月十三日(土) 二胡コンサート

・はじめのヨガ 十三時〜 毎回千円

十二月五・十九日 / 一月九日・三十日

・一月の心耕はお休みです。

## 令和六(二〇二四)年法事

年回表	往生年	西暦
一周忌	令和五年	二〇二三年
三回忌	令和四年	二〇二二年
七回忌	平成三〇年	二〇一八年
一三回忌	平成二四年	二〇一二年
一七回忌	平成二〇年	二〇〇八年
二三回忌	平成十四年	二〇〇二年
(二五回忌)	(平成十二年)	(二〇〇〇年)
二七回忌	平成十年	一九九八年
三三回忌	平成四年	一九九二年
五〇回忌	昭和五〇年	一九七五年

空くう

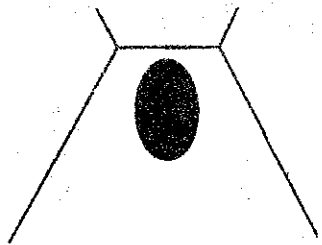
金沢の二十一世紀美術館に、是非見ていた  
だきたい作品があります。アニツシュ・カブ  
ーアの「世界の起源」です。斜めの壁に楕円

を描き、それが見る角度によって浮いているようにも見  
えるのです。自分の感覚がなくなるような不思議な体験  
を味わえます。

有るようでもあるし、無いようでもある。条件が変わ  
れば、見えるものが変わってくる。縁によって成り立ち、  
縁によって変わるのです。私が今ここにいるのも、様々  
な縁が複雑につながり私を構成しています。これを  
「仮和合けわごう」といい、理論を「空」といいます。私は私の  
ようで私ではないのです。仮に私と言っているだけなの  
です。仏教の特徴であり面白さです。

現代は私らしさを追求する時代です。ところが仏教は  
我を否定し「空くう」を説くのです。私らしくない部分も私  
の一部分であり、受け入れていくことを大切にしてい

のです。般若心経はんにゃしんきやうには、すべては「空くう」  
であることを説き明かしていきます。  
そして、「空くう」であることも考えてはい  
けないと徹底的に無我むがを説きます。



欲が深いと

他人も

そう見える  
身なり仏

# こんなところに 仏教用語

用教仏近  
語を紹介して  
います。

空くう也や

の像のモデルが今回ご紹介の「空也上人」です。

日本における浄土教の興隆には、七高僧の源信和尚は欠かせ  
ません。源信和尚が『往生要集』を書き、比叡山でひたすら浄土  
教を説かれました。西暦千年前後の日本では末法に入つたと言  
われ、阿弥陀仏あみだぶつのすくいを求め浄土教が流行りだします。一  
方、源信和尚より少し先に生まれ同時代を生きた空也上人は市  
中でひたすら念仏を称え、在野の人々に 念仏を弘められまし  
た。

空也上人は九〇三年に一説では醍醐天皇の第五皇子として  
誕生されました。二〇歳の頃、尾張の国分寺にて出家し空也と  
名乗られました。この当時から南無阿弥陀仏なむあみだぶつと称えつつ、道路  
や橋などを修繕し、井戸を掘るなどの社会慈善事業を行って  
ました。三十六歳で京都に移ります。托鉢乞食たくはつこじきをして、南無  
阿弥陀仏あみだぶつと称えながら貧しい人々に分け与えました。



この市中を歩く姿が現代に伝  
わる空也上人像です。

## 大人相

『大経』二十一

前回の三願転入と言う言葉は不適切な表現だと感じます。十九願・二十願は自力が雑じつています。人間は自分を信じているために、何でも「俺が俺が」が有って何処までも行きます。そのような人をも「撰取不捨」とこの二願が建てられます。十九願では「菩提心を興しても阿弥陀さんの掬いに背を背けて自力に縛られて活動するも、至心に我が国で暮らしたいと願ってくれ」となり、途中で挫けない様に「臨終の時に迎えに行くよ」と目標を与えています。至心に発願した人は自力だけでは無理だと言う事に気付くことがあり、二十願に回入します。回入とは十九願の行為とあまり変わらないけれども名号を聞いたことで我が国に思いを懸け、我が国に生まれたいと至心に回向しなさい。そうすれば必ず正信に往くことが出来ますよと言う事です。このように十九願を通り二十願に回入して、至心という自力が効力を無くし、煩惱具足の凡夫の自力無効を知らされ、念仏は感謝しかないという八願に転入することに成ります。転入とは180度方向が変わると言う意味です。そうであれば自力から他力への転換ですので三願転入とは言えないのではないかと思いま

す。学者連は安易に言葉を造って人々を惑わすようです。

次が二十一願の三十二相が具わる願です。位置的には素晴らしいと思います。果遂の願により十八願へ入った人はブツダと同じ三十二の優れた身体的特徴が具わるという設定です。十八願成就の願がこの二十一願です。この二つの願に挟まれて十九願・二十願の衆生が見守られていることは、重要な事のように感じられます。

三十二の特徴の内、何点かを岩波仏教辞典から引用してみます。まずは偏平足です。土踏まずの無い人は仏に近いと言えるでしょう。次に足の裏に輪の文様がある。自分の足裏を確認してみましょう。指の間には水掻きがある。掬うと言う事らしいです。救いという字は現状の状態を止めるという意味なので、今後は掬いを使いましょう。直立時に手が膝に届く。私達には無理でしょうね。男根が隠れている。仏像の顔や体を女性的なしなやかさで象徴しています。肌が金色である。三願に誓われてあります。歯が四十本ある。私たちは親不知を入れても三十二本です。舌は顔を覆うくらい大きい。私たちは鼻に届くのがやっとです。頭頂に隆起物がある。眉間に白い旋毛がある。などなどです。仏に近い相を備えているのが菩薩です。

## 住職多感

十一月二十六日日曜日、今日は報恩講の最終日。例年のようにお昼のお齋づくりのために婦人会のメンバーが朝早くから集まって台所は賑やか。

今年の報恩講師の浄謙恵照氏は若住職の節談説教の縁で西光寺に来て頂いた。精進イタリアン料理を自坊（広島県山県郡北広島町浄謙寺）で披露されているということで、西光かよう寺で初のイタリアン精進お齋。婦人会の面々も初めてのイタリアン「精進料理」。昨日からの下準備に続いて浄謙師の指導を聞いて野菜を切ったり味付けしたり盛り付けしたりとバタバタしながら何とかお昼に間に合った。若住職は勿論ピザ焼き、壮年会の手伝いは慣れたもの。

ということ今年報恩講は若い

ご講師・イタリアンお齋という私（住職）の時代は過ぎたことを知らせる報恩講となった。

手足が思うように動いてくれないのは困ったことだが一時期よりは多少ましになっている。が、あくまで多少、耳と目も昔とはだいぶ違っている。

デイケアに週2回通うようになり、カラオケも唄っている。一曲しか歌わないがレパートリーが山ほどあるので選ぶのに困っている。時代遅れという歌のセリフで、いつもの酒場のいつもの席でいつもの酒を飲み、歌は一曲十八番を歌うだけ、というセリフがあったように覚えている。しぶい、カツコイイ、とは思っても自分の柄じゃないことは分かっている。さあ今度の火曜日何歌お。

## 二月の行事

- ・十二日 はじめの一步
- ・二十五日 日曜法座
- ・十七日 寺カフエ

※一月号の心算はお休みです

## 発行

浄土真宗本願寺派(西)

## 西光寺

〒二九〇一〇〇二四  
千葉県市原市根田

七二三一一

TEL : 0436-22-7412

FAX : 0436-24-1652

HP : <https://www.saikohji.net>

MAIL : [saikohji@saikohji.net](mailto:saikohji@saikohji.net)